

形容詞 *occasional* の用法と意味に関する認知意味論的考察

—There were *occasional* pine trees on the roadside を中心に—

キーワード: 空間的間隔 / 時間的間隔 / 隠喩 / 文修飾 / 「松の木文」 / S. Grafton

金子輝美

0. はじめに

副題の英文は『プログレッシブ英和中辞典』(4版) から引用した。「沿道のところどころに松の木が植えられていた」という和文が付されている。*occasional* は元来、不規則な時間的間隔や頻度を表すが、この文中では「ところどころにある」という意味に解することができる。この種の英語表現を便宜上、「松の木文」と呼ぶことにする。また、*occasional* のすべての用法を <*occasional* 表現> と総称する。「松の木文」では、*occasional* は時間的概念から空間的概念を表すために転用された¹ と考えることもできるが、それは読者の立場からの積義である。「沿道には松の木々が立ち並ぶのが見えた」というように、話者はこの風景を時間的に捉えていると筆者は推測する。ここでは話者の視点に立って、「松の木文」の意味的特徴とその産出過程を探りたい。

1. <*occasional* 表現> の分類

「*occasional*+名詞形」という形式を意味によって A と B に二大別し、さらにそれらを後続名詞の複数・単数形によって二分する。これは <*occasional* 表現> の全体像を把握するために想定した大ざっぱな区分である。すべての表現が過不足なく厳密にこの分類に属するとは限らない。

A 基本的表現 (話者は事態を時間的に捉え、読者はその表現を時間的に解釈している)

(1) *occasional*+名詞の複数形 (2) *occasional*+名詞の単数形

B 「松の木文」 (話者は事態を時間的に捉えているが、読者は空間的に解釈することが多い)

(3) *occasional*+名詞の複数形 (4) *occasional*+名詞の単数形

A の *occasional* は、後続名詞句だけを修飾する場合、後続名詞句と文全体を修飾する場合、さらに後続名詞句をほとんど修飾せずに、文だけを修飾する場合がある。一方、B では *occasional* は

後続名詞を修飾せずに、文全体を修飾することが多い。このような修飾関係は、後続する名詞句の意味、occasional が文中のどのような位置で使われるかなどいくつかの要因によって異なる。2節で例文を観察し、4節では occasional と後続語句の修飾関係の本質を明らかにしたい。

2. 例文の観察

各例文の意味解釈と語法に関して簡単な説明を加えたい。例文 (1)-(4) は、1節で示した分類番号に対応する。なお、以下の英文および和文中の下線はすべて筆者によるものである。

最初に A に属する例文 (1) を示す。

- (1) a. He made occasional visits to London. (Macmillan English Dictionary. 2nd ed.)
b. Cloudy with occasional showers. (『グランドセンチュリー英和辞典』4版)
c. Such recent ‘occasional spellings’ as *creater*, *mater*, *obleege*, and *sojer* remind us how pronunciation has ever moved in the direction of orthography.
(S. Potter, *Our Language*)
d. There were even occasional rumours, probably started by the traders, that all the salespeople were going to be fired, and the firm would simply trade in a blissful vacuum.
(M. Lewis, *Liar’s Poker*)
e. But on Cape May Point, I was allowed to take occasional puffs on his tant cigarettes.
(J. Murry, *A Few Short Notes on Tropical Butterflies*)

各例では、不規則な時間的間隔を空けて行為が繰り返される。(1a) では「ロンドンを時おり訪れる行為」が、(1b) では「にわか雨」という自然現象が、それぞれ統合的に捉えられている。(1a) (1b) は比較的よく見られる用法である。<occasional 表現>のプロトタイプ（典型）であると思ってもよいだろう。(1c) は *creater*, *mater*, *obleege*, *sojer* のように、音声に近づけて文字を綴る傾向が 20 世紀前半に英国で時おり見られることに言及している。これらはそれぞれ *creature*, *matter*, *oblige*, *soldier* という本来の綴字に対応するという吉松 (1966: 249) の訳註は有意義である。(1d) はアメリカ合衆国ウォール街の投資銀行 (investment bank) ソロモン・ブラザー (Solomon Brothers) の最盛期の様子を伝えている。債券 (bond) の売買で莫大な自己利益を稼いでいる敏腕のトレーダーたちは、会社の営業成績への貢献度も大きかったので、会社にとってはなくてはならない存在であった。小口の客注を受けて売買する旧来の堅実なセールスマンたちは、近日中に解雇されるという噂が時おり聞こえてくるほどであった。噂は聴覚を通して得られるものであるから、当然のことだが、occasional rumours は時間的に捉えられている。(1e) では、occasional と puffs の修飾関係は強いが、occasional は同時に I was allowed to take puffs on his tant cigarettes を修飾していると解釈することができる。

A (1) で使われる occasional にはどのような名詞が後続するのだろうか。(1) では5例を示したが、さらに occasional が含まれる部分だけを実例から抜き出して追加しておきたい。紙幅に余裕がないので、文脈の中で実例を提示できないことは不本意であるが、少しでも参考に供することができれば筆者の願いの大半は達せられる。

occasional bad moods (D. Steel, *Apartment*) / occasional shouts of outrage (L. Lee. *As I Walked Out One Midsummer Morning*) / occasional hours when ... (E. Gaskell, *The Moorland Cottage*) / the occasional moments when ... (D. Tannen, *You Just Don't Understand*) / occasional questions (S. Grafton, *A is for Alibi*) / his occasional assignments (M. Lewis, *The Money Culture*), etc.

次に後続名詞が単数形である実例 (2) を示す。1つ1つの行為や事態を順に視野に収めている。(2) の方が (1) より使用頻度が少し高いように感じられる。

- (2) a. He is not the only politician who enjoys an occasional drink, but one of the few who appreciate good wine and can tell an outstanding claret from plonk.
(G. Mike, *How to Be Poor*)
- b. After an occasional slow beer in the tavern, the stranger turned the corner and wandered past the high-fenced coal yard; he would go around the block until he got back to Sam's candy store.
(B. Malamud, *The Assistant*)
- c. All around is the roar of traffic, punctuated by honks from delivery scooters, recorded safety warnings from buses and the occasional bell of a rental-bicycle.
(*The Economist*, October 5-15, 2021)
- d. Kindness, kindness, and more kindness - yes, that he might supply, but that really all that the queer nation needed? Did it not also demand an occasional intoxication of the blood?
(E. M. Forster, *A Passage to India*)
- e. February had silenced all the summer insects, but I could still hear a few hearty crickets in the dry grass and an occasional nightbird.
(S. Grafton, *K is for Killer*)
- f. And remembering the thin days at home, when meat was only for Sundays, I ate at least one of them every day. Otherwise I was encouraged to ring the changes on the house's limited permutations - Squeak, Toad, Liver and B; or as a privilege, an occasional herring.
(L. Lee, *As I Walked Out One Midsummer Morning*)

(2a) (2b) の occasional は、後続名詞を修飾すると同時に、文全体を修飾している。(2a) では、「政治家が飲酒を楽しむこと」が、(2b) では「よそ者が居酒屋でゆっくりとビールを飲みながら時間潰しをしている姿」が、それぞれ「時おり見られた」のである。(2c) (2d) では、occasional は後

続語句全体を修飾している。例えば、(2c) で occasional が修飾対象にしているのは、the bell of a rental-bicycle である。(2d) の an occasional intoxication of the blood の occasional も後続語句を修飾している。この部分は occasionally intoxicated with (by) the blood と書き換えて解釈することができる。英国人とインド人がどんなに親しく交流しても、両者の間には埋めきれない溝があることに英国人は気づいていた。「時には民族としての血脈に酔いしれることがあってもいいのではないのか」と英国人が独白する場面である。これらの occasional は文修飾していない。(2e) では、話者は2月の暗夜に草叢でコオロギが精一杯の力を尽くして鳴く声を聞いていると、時おり nightbird (ナイチンゲールであろう) の声が聞こえてきた。この野鳥は「夜間に美しい声で鳴く」ことで知られている。nightbird は述部動詞 hear と連動して、「その鳴き声」を含意するメトニミー (metonymy 換喩) の機能を果たしている。I could hear an occasional song (singing) of a nightbird. というように、song (singing) を補うことができる。また、副詞 occasionally を使って文意を説明することができる。最後の (2f) は、ロンドンの食堂 (house) の思い出話である。先行文脈から an occasional herring は「ニシン料理を時には注文すること」(an occasional ringing for a herring) であると解することができる。herring には「料理」という意味が含まれるので、先例の (2e) と同じようにメトニミーである。先行文脈を視野に入れると、「時にはニシン料理を注文する特権を使うことができる日もあった」と解釈することができる。occasional の使用は、そのような日が何度もあったことを暗示している。

実例 A (2) に属する「occasional+単数名詞」を挙げて参考供したい。一見して意味が理解できるような語句を選んだ。

the issue of the occasional dog running loose (S. Grafton, *X*) / the occasional omission of the conjunction (E. Weekly, *The English Language*) / an occasional borrowing of the Standard English suffix (J. L. Dillard, *Black English*) / the occasional outburst of chatter (P. Hawkins, *The Girl on the Train*) / her occasional recital in London (G. Bullett, *The Jury*), etc.

次に B 「松の木文」に属する実例を観てみよう。後続名詞は複数形である。A (1) (2) とは違って、B (3) (4) では、身体的あるいは精神的行為が連想される discussion, fighting, request, claim, revenge, question, glance, reference, visit, use のような名詞は使われない。

(3) a. There were occasional manzanita trees along the slope, still stripped down to spare, misshapen black forms by the fire that had swept through two years back.

(S. Grafton, *B is for Burglar*)

b. I passed through occasional cork-woods smoking with the camp-fires of gypsies squatting by little streams, through scented beanfields rushing with milky water and villagers screened under veils of fish nets. (L. Lee, *As I Walked Out One Midsummer Morning*)

c. The surf made its relentless approach and retreat, soft pounding at the shoreline, where occasional seabirds race-walked along the hard-packed sand. (S. Grafton, *N is for Noose*)

(3a) では、話者は小高い丘に登って下界を一望する。野焼きをして2年経つが、ツツジ科の常緑灌木マンザニータがあちこちに根強く叢生しているのが見えた。この文は副題に掲げた「松の木文」と同じ There 構文である。(3b) は英国の詩人・小説家の自叙伝である。19歳の主人公の少年は、草深い田舎からヴァイオリンを抱えて放浪の一人旅に出た。初めて見る大都市ロンドンを経て、スペインへ渡るが、やがて戦乱が勃発したので、人目を避けて山間部の森を通り抜けて港まで歩かなければならなかった。(3c) の occasional は、原則的には、後続する seabirds を修飾するのではなくて、この節全体を修飾している。海鳥が波打ち際を並走する姿が時おり見られたのである。

最後に、「occasional+名詞の単数形」の実例 B (4) を示す。

- (4) a. The area was largely unpopulated. I could see an occasional house on my right, but the fields were scruffy and dotted with boulders. (S. Grafton, *K is for Killer*)
- b. It was late when she set off up the steep main road, keeping well to the side of the tarmac strips on which an occasional car would pass, or a native on a bicycle. (M. Spark, “The Go-Away Bird” in *The Go-Away Bird and Other Stories*)
- c. There was, it is true, little meat at those times; sometimes a pound of bare ribs for boiling, or an occasional rabbit dumped at the door by a neighbour. (L. Lee, *Cider with Rosie*)
- d. Any good liar will tell you that stitching in the occasional point of fact gives a fabricated story a certain ring of truth. (S. Grafton, *X*)
- e. Westward, the woodland and farms reached for miles and miles: here and there she could see little churches and an occasional village. (*The Concise English Readers III*)

(4a) は運転中の女性が見た田舎の早朝の風景である。右手に時おり民家が現れ、すぐに後方へ消えていった。an occasional house は「沿道に点在する民家」ではなくて、「次々に1軒ずつ目に飛び込んでくる民家」である。静的な物体を動的に捉えた主観的表現である。(4b) では、自動車や自転車及時おり話者の視野に入ってきた。(4c) では英国の田舎の生活が語られる。野菜は豊富だったが、肉類は乏しく、わずかな羊肉に加えて、「時おり隣人が戸口にドサッと置いてくれるウサギ」だけしかなかった。an occasional rabbit は「時おり戸口にやってくるウサギ」という意味ではない。(4d) は「事実を時おり（ところどころに）織り込むだけで、嘘の話も本当のように聞こえるものさ」という詐欺師の言葉である。「時間」（時おり）と「空間」（ところどころに）は、元来、別個の概念であるが、文中では解釈上、ほとんど同じ意味になっているように感じられる。実際には、「空間」と「時間」は、話者の心の中ではどちらかに区分されて捉えられているのかも知れない。だが多くの場合、話者以外の他者にはこのことは感知できないのである。

(4e) は『続・英語語法大事典』（1976: 168）² からの引用例文である。「“an occasional village” はなぜ複数形にならないのか」という読者（埼玉県）の質問に対する安藤貞雄氏（当時、島根大学教授）の回答を要約して紹介する。

「‘occasional’ の意味は、*OED* (s.v. Occasional 3) の次の説明に当たるものと思われます。
“Happening as an occasion presents itself, but without certainty or regularity; taking place, occurring, or *met with now and then*.” 特にイタリック体にした部分が、この場合にぴったりです。教科書の注の“あちこちに点在する村”は空間的な意味ではなくて、“折ふしに見かける村”という“時間的な意味”で使われています。折ふしに1つずつの村を見かける以上、*village* が単数であるのは当然でしょう。*village* の複数形を期待されるのは、教科書の誤注に引きずられておられるからだと思います」

認知言語学がまだ知られていなかった時代だったこともあって、この説明は先進的な卓見であるように感じられた。「なぜ単数が使われるのか」についての話者の立場からの説明は説得力がある。*OED* の説明は、「単一の出来事 (an occasion) が不規則に発生する：すなわち、それは時おり(あちこちに) 偶発するのが見られるような出来事である」という意味であろう。‘*met with now and then*’ は「時々、偶然出会う」すなわち「時おり見かけられる」という意味である。

「松の本文」(3) (4) に該当する事例から、occasional を伴う語句だけを抜き取って示す。どのような複数形および単数形の語が occasional に後続する傾向があるのだろうか。

an occasional feed store 飼料貯蔵庫 (S. Grafton, *N is for Noose*) / an occasional frail tree (S. Grafton, *K is for Killer*) / occasional potholes in the street 道路のくぼみ (S. Grafton, *C is for Corpse*) / an occasional exotic restaurant (J. L. Dillard, *Black English*) / the occasional porthole window 舷窓 (Sue Grafton, *R is for Ricochet*) / an occasional driveway (S. Grafton, *X*), etc.

上掲のように、occasional に後続する feed store, tree, potholes, restaurant, window, driveway はすべて静的な事物である。これは「松の本文」の大きな特徴であると言える。

(3) (4) のような使用例は、筆者の限られた読書経験の範囲内であるが、作家によってかなりの隔りがある。例えば本邦で愛読者の多い J. K. Rowling の *Harry Potter Series* や Sidney Sheldon の作品群からは、該当例を採取することはできなかった。一方、米国の女性ミステリー作家 Sue Grafton³ には、特に詩的な風景描写の場面で「松の本文」が比較的多く見られた。

3. 類義語との比較

sporadic については、*OED* (1989) に 1. *Path. of diseases*: Occurring in isolated instances, or in a few cases only; not epidemic. という説明がある。「(病理学 *pathology*) 疾病が発生する」を第一義にしている。『ジーニアス英和辞典』(4版) は、「点在する、ばらばらの、ちりぢりの、時折の、散発的な (occasional)」を載せている。国内外の数種の辞典からは、sporadic meetings / sporadic visits / sporadic showers / sporadic skirmishes (散発的交戦) のような時間的な使用例が得られる

が、A sporadic aquatic plant of shallow stationary water (...) (浅瀬のところどころに見られる水生植物) (*Cambridge International Dictionary of English*) / a sporadic growth of fern (『研究社新英和大辞典』4版) のように、植物などの空間的散在性を表すという記述も見られる。sporadic の語源はおそらく spore (孢子) に関係すると思われる。孢子 (シダ植物の葉の裏面に生じる特有の種子) や病原菌 (a very minute germ or organization. *OED*) が空中に散布されて、その地域にシダが発芽したり、疾病が発生することはあり得ることである。時間と空間に関する意味が本来的に並存するように思われる。

frequent には「分布が密な」「(短い間隔で) 点在する」などの意味が各種の英和辞書に見られる。『研究社新英和大辞典』(4版) には、a coast with frequent lighthouses / Sudden rain storms are frequent on this coast. が見られる。Lighthouses are frequent along the coast. (『旺文社英和中辞典』2版) も同じ用法である。Oaks are frequent in the park. (『ロイヤル英和辞典』初版) では、読者の側から見れば、時間から空間への転用が実現している。一方、話者は櫛の木の空間的間隔に、frequent が表す時間的間隔を重ね合わせていると推測することができる。

frequent と occasional は、次例では対照的に使われている。His shirts were soft from frequent washings, thread-bare along the collar, with an occasional button missing. (S. Grafton, *L is for Lawless*) の前半の複数形 washings に注目したい。「洗濯すること」は日常的茶飯事であるから、1回1回の行為に注目する必要はない。したがって、この場合は a frequent washing と表現されることは通常はあり得ない。後半では with an occasional button missing と単数形で表現されているのは、1つ1つのボタンの欠損に話者の視線が向けられているからである。換言するならば、話者は時間軸に沿って、シャツのいくつかのボタンの欠損という現状を順に視野に収めている。一方、読者は some of the buttons were missing というように、この現状を全体的に捉えて解釈する。

intermittent の使用例としてよく知られているのは、an intermittent fountain (spring) (間欠泉) である。接頭辞 inter は international から判断できるように、「～の間に」を意味する。例えば、民放の TV 番組では、「intermittent な広告」あるいは「広告の intermission」によって番組が一時的に中断される。小説とエッセイから実例を示したい。

- (a) The night was foggy, and I could hear the intermittent moaning of a foghorn sounding on the ocean. (S. Grafton, *K is for Killer*)
- (b) I could hear the peeping of ground frogs, probably poisoners, and the intermittent hooting of an owl. (S. Grafton, *Q is for Quarry*)
- (c) (...), I noticed that the large expanse of yard in front of which we were standing was aglitter with the intermittent flickering of fireflies. (D. Tannen, *You Just Don't Understand*)

(a) では、夜の波止場の静寂を切り裂くかのように、時おり霧笛が響いた。(b) ではカエルが鳴き続ける夜、カエルの声を割って、フクロウの鳴き声が断続的に聞こえてきた。(c) は、遅い夕陽が沈み、夕闇が次第に濃くなる時刻の情景描写である。6月の闇夜は、蛍火でまさに「間欠的」に綴られ

たのであった。intermittent には「間欠的」というイメージが付きまとうように思われる。

occasional の語義は、『プログレッシブ英和中辞典』(4版)と『ランダムハウス英和大辞典』(2版)では、「1. 時折の 2. ところどころにある 3. 特別な場合の 4. 予備の、臨時に使う」(5, 6 は省略)となっている。これらの辞典はいずれも小学館から出版されている。しかし、『ジーニアス英和辞典』(4版)、『ウィズダム英和辞典』(2版)、『フェイバリット英和辞典』(4版)、『グランドセンチュリー英和辞典』(4版)、『スーパー・アンカー英和辞典』(2版)、『オーレックス英和辞典』(2版)など、本邦の多くの英和辞典は「ところどころにある」という語義を載せていない。

4. occasional の文修飾機能

意味と形式の両面から「限定修飾」を包括的に論じた中澤 (2014: 7-17) に触れておきたい。形容詞・名詞・分詞などと、それらに後続する名詞との間には、どのような修飾関係があるのか、その修飾関係の強弱はどうか、あるいは修飾関係は全然ないのか、という問題の解明を端緒にして議論が展開される。当該論文では、“*An occasional sailor strolled by* relates to *A sailor strolled by occasionally*.” という Bolinger (1967: 5) の記述が重要視されている。副詞 occasionally を用いた書き換えが可能であるということは、この occasional は後続する名詞 sailor を修飾しているのではなく、文全体を修飾していることになる。John drank a quick cup of coffee. においても、quick は cup を全然修飾していない。副詞形 quickly を使って言い換えることができる。

John is a local policeman. では、*John is local. は成立しないので、local と policeman の修飾関係は弱いと説明されている。Henry is a policeman in the rural area. から Henry is a rural policeman. が得られ、John visits the museum frequently. は John is a frequent visitor to the museum. という書き換えが可能である。同じように A sailor strolled by occasionally. から An occasional sailor strolled by. という文法的拡張が可能である。これらの一連の転移を「文法的帰化」(grammatical naturalization) と規定している。これはこの論者が以前から一貫して主張していることである。なお、拙稿 A (1)(2) に類する occasional の用例には、何も言及されていない。

Bolinger の例文 An occasional sailor strolled by. に形式が最も近いのは、B (3c) (4b) である。すでに2節で述べたように、これらの実例の occasional は文修飾していると解釈するべきである。関連して、別の実例を紹介したい。A. Munro の小説 *Runaway* には、(...), it was the sort of place where the very occasional tourist bus would stop, (...) がある。主人公の若い女性は都会から遠く離れた静かな田舎に友人と住んでいる。「観光バスがこの地に来て、乗客を降ろすことはめったになかった」という意味である。The very occasional tourist bus は、「その日にこの地に来た観光バス」というように、特定の日に来たバスを指示しない。very occasional は頻度が非常に低いことを意味する。文意は A tourist bus would seldom (rarely) stop に近いであろう。

次の例文でも、occasional が後続名詞を修飾する度合いは低い。He wrote an occasional article. (J. Grisham, *The Pelican Brief*) は、大学教授の生活の一面を描いている。He occasionally wrote

an article. と書き換えることができるので、occasional は He wrote an article. という文全体を修飾していることは明らかである。だが、occasional は後続名詞 article との修飾関係はどのように判断すべきであろうか。文脈なしで、an occasional article だけに接した場合、論文を「書く、読む、審査する、口頭発表する」など多様な意味が想定され、意味は限定されない。述部動詞 wrote と an occasional article が連帯して意味が定まるのである。だが、He wrote an occasional article. の occasional の本質は後続名詞 article を修飾するよりも、述部動詞 wrote を修飾することにあると言えよう。このような occasional の修飾の射程範囲を He wrote an article. まで延ばし、本稿では「文修飾」と呼んできたことを念のため付言しておきたい。なお、「論文を書く」ことが想起される可能性が高いことに着目すれば、occasional と article の修飾関係はある程度は存在すると言える。

一方、He made occasional visits to London. / He makes occasional errors in spelling. では、occasional は後続名詞を修飾すると同時に、文全体をも修飾している。文脈なしで、occasional visits / occasional errors という語句だけに接した場合、その意味解釈は容易であり、ほとんど解釈上の紛れは生じない。これらの語句は意味的な連結度が高い。ところで、「松の本文」の There were occasional pine trees on the roadside. はどのように説明されるべきだろうか。敢えて書き換えを試みるならば、We could see pine trees occasionally on the roadside. という表現が想定される。occasional が文修飾していることは明らかである。だが、occasional は pine trees を修飾しているのかどうかという問いには、「修飾関係は皆無に近い」と答えたい。しかし、occasional に「ところどころにある」という語彙的意味が確立していることを認める立場から議論するとしたら、全く別の答えが用意されるだろう。occasional は pine trees を修飾することになり、occasional の意味は Pine trees were found here and there on the roadside. と書き換えて説明されるだろう。要するに、空間的意味解釈に重点が置かれた説明になる。本稿ではそのような説明方法は採らない。

(2c) の All around is the roar of traffic, punctuated by honks from delivery scooters, recorded safety warnings from buses and the occasional bell of a rental-bicycle. のように、文の一部だけを修飾する occasional の用法は決して稀ではない。この文の下線部だけを occasionally を使って書き替えることは、かなり困難である。He smokes occasionally. と He is an occasional smoker. の間には、確かに「書き換え」の互換性がある。だが He gave me a book occasionally. を [?]He gave me an occasional book. あるいは [?]He was an occasional giver of a book to me. と書き替えるとしたら、かなり奇妙であり、不自然である。＜occasional 表現＞の意味構造を説明するために、筆者は occasionally という副詞を使って書き換えてきた。文構造や修飾現象を説明するには有効な方法であるが、万能ではない。このような書き換えを可能にする明確な法則があるとは思えない。すべての「松の本文」が、occasionally が使われた表現から導き出されるとは限らない。

前節で Oaks are frequent in the park. という英和辞書の例文を紹介した。しかし、*Pine trees are occasional on the roadside. という occasional の叙述用法は、通常は容認されない。少し古い英々辞典であるが、次のような occasional の例文は興味深い。He pays me occasional visits. That sort of thing is quite occasional; it's not the rule. (*Idiomatic and Syntactic English Dictionary*. 1st ed. 1942) は、編者の A. S. Hornby たちが英語学習者のことを考えて作為した英文のように感じられる。

行為の頻度に重点が置かれる場合には、このような叙述的用法も成立するのだろう。各種の英和辞典の occasional の項には、「通例、名詞の前」とか「通例限定」という注記が見られる。繰り返すが、*Pine trees were occasional on the roadside. はやはり通常は認められないだろう。

類義語 occasional, sporadic, frequent, intermittent には、意味や用法に共通点もあるが、反面その形容詞でなければ表せない固有の意味が内在するはずである。だからこそ、これらの語彙は廃語になることなく実用されてきたのである。

最後に、これまで議論の対象外にしてきた実例を加えておきたい。The chairs were blond, the occasional tables lacquered in black. (S. Grafton, *R is for Ricochet*) は、ホテルの広間の描写である。「椅子は淡色系で、臨時的補助テーブルは黒の漆塗りだった」という意味である。occasional tables は、文脈によっては、「あちこちに散在するテーブル」を意味することもあるだろう。しかし、ここでは文脈と慣用の観点から、「補助用テーブル」と解される。“tables (chairs) to be used occasionally” という原初的な意味から “spare tables (chairs) for special occasions” (いずれも自作の英文説明) へと意味拡張された慣用句であり、複合名詞と称することもできる。

<occasional 表現>の限定修飾という形式には、次の4つのタイプがあると考えられる。

- ① 後続名詞句を全然修飾せずに文全体を修飾する。

An occasional soldier strolled by. / He drank an occasional cup of coffee.

類似した表現に She drank a lonely cup of tea. のような転移修飾 (transferred epithet) がある。この種の表現は話者の心情を表す形容詞が使われるという点に大きな特徴がある。

- ② 後続名詞句を修飾しながらも、文修飾もする。

She made an occasional visit to Paris. / He makes occasional errors in spelling.

- ③ 後続の名詞句だけを修飾する。

Cloudy with occasional showers. / Along the roadside were oak trees with an occasional maple tree. (『ランダムハウス英和大辞典』6版)

- ④ 慣用的に固定した複合表現で、特別な場合に関連する物品・文書・人物などを表す。

occasional chairs (tables) / occasional verses (poems) / an occasional student (聴講生)

5. 「松の木文」の分析と結論

文末補注1で触れたように、occasional pine trees の occasional は、読者の立場からは、「時間から空間表現」への転用であると解することは可能である。occasional の語義として「ところどころにある」を載せている英和辞典は、既述のように、現在では小学館から出版されている2種に限られるが、occasional の語義は今後、辞典類でどのように扱われるようになるのだろうか。この問題は、「松の木文」の今後の使用頻度の方向性ととも、非常に興味深いところである。

「はじめに」で述べたように、本稿ではできるだけ話者の側に立って、「松の木文」という言語事

象の産出過程を推測する。There were occasional pine trees on the roadside. という風景は、話者の視覚を通して認識されたに違いない。この表現が産出されるに際して、話者の心の中では認知能力がどのように作動したのだろうか。Langacker (1987: 144-146) は、物体が落下する様を「連続的の走査」(sequential scanning) と「統合的の査定」(summary scanning) に分けて説明している。An occasional pine tree came in sight. (自作文) のような、時間軸に沿った連続的で動的な表現が次々に話者の視野に入り、それらが心の中に積み重ねられた結果、静的な状態を表す統合的概念として固定されたのが、副題に掲げた「松の木文」であるということになる。

「沿道のところどころに松の木が植えられていた」という空間的解釈に基づく和訳の方が、読者には受け容れられやすいだろう。だが、意味とは、話者すなわち概念化者 (conceptualizer) の心に浮かぶ概念の一種である。「松の木文」は、話者がその風景をどのように捉えたのかを反映していることを無視してはならない。

沿道に松の木が立ち並ぶ風景を見た話者が、(1b) Cloudy with occasional showers. のような気象情報の表現を想起したと仮定してみよう。この表現が心に浮かぶのは、その話者が「にわか雨」の気まぐれな時間的間隔と「松の木々」の不規則な空間的間隔という構造的類似性を認知することができたからである。換言するならば、話者は比較的によく使われる既成の表現の時間的構造を、「次々に視野に入ってくる松の木々」の空間的構造に重ね合わせることによって、「松の木文」を獲得したのである。字義通りには、occasional pine trees は不合理で奇妙に感じられるが、母語話者の意識の背後には、occasional showers / occasional visits のような日常生活でよく使われる同じ形式の表現が存在すると思われる。「松の木文」は、「松の木々がわずかな時間的間隔を空けて次々に視野に入ってきた」という話者の経験を統合的に表現したメタファー (metaphor 隠喩) である。この種の表現は、時間と空間という2つの概念が二重写しされた構造的メタファーである。

6. おわりに

「松の木文」が使用される環境はさまざまであるが、筆者の狭小な読書経験の範囲内では、この種の表現は、文学作品の詩的な風景描写の際に使われる傾向があるように感じられる。特に S. Grafton の作品群の「松の木文」には、知的で硬質の抒情性が感じられる。文学作品を読むことは、その文体を読むことでもある。文体という用語は曖昧で把握しにくい、文体研究は魅力的な分野である。

例えば絵画にはその画家特有の特徴が見られるし、私たちの服装にも意識的または無意識的な好みや感覚がそれとなく表出されることがある。囲碁や将棋のプロ棋士には、その棋士を特徴づける棋風がある。同じように、S. Grafton の作品群にも独自の文体的な特徴が表出されている。Grafton の作品群には、自然観がどのような形で反映されているのだろうか。この作家の文体的特徴の解明は今後の課題としたい。

補注

- ¹ 友澤 (2004: 93) は、There were occasional pine trees on the roadside. という英文を含む2例を文末補注に示し、その意味的特徴にごく簡単に触れているが、出典は明記していない。この論文は「行為解説の進行形」を認知文法の視点から分析したもので、occasional の用法を真正面に据えた研究ではない。「行為解説の進行形」を時間的包含関係から集合的包含関係への比喩的転用、すなわち抽象概念を具体性の高い空間概念への転用として捉えることの可能性を結論として提起している。だが、このような転用の方向性は一般的ではない。前置詞 in が、例えば in Nagoya (空間) から in 2023 (時間) へ転用される事例の方が一般的である。時間から空間への転用が感じられる occasional の例文を示すことによって、自身の論考の結論は必ずしも言語現象に反するものではないことを強調したかったのだろう。
- ² 原資料は『英語教育』(1972年3月号, p. 64) の Question Box 欄である。質問者が引用した例文の原典 *The Concise English Readers* は、1969年に三省堂から出版された教科書傍用の副読本である。各頁に日本語の脚注が与えられている。編集・執筆者は、佐伯彰一(米文学・文芸批評/当時、東京大学教授)、杉山忠一(言語学・英語学/当時、東京大学教授)、吉田弘重(米文学/当時、広島大学教授)の諸氏である。
- ³ Sue Grafton (1940-2017) は *A is for Alibi* から *X* までの探偵小説の連作で知られている。物語中の主人公はカリフォルニア州に住む私立探偵 (a private investigator) である。主人公は多忙な現代社会の現実を生きる32歳の独身女性であるが、時には丘に登り、時には田舎道に愛車を止め、時には海辺に出て、大自然に孤身を寄せる。季節が巡れば律儀に可憐な花を付ける樹木や野草たち、荒野に点在する灌木の逞しい生命力、樹林を越えて牧場や農園を渡る涼風の感触などを引き締まった「松の木文」を交えて描いている。

主要参考文献

- 安藤貞雄 (1976) 「an occasional village」『続・英語語法大事典』168. 大修館書店。
- Bolinger, D. (1967) “Adjectives in English: Attribution and Predication” in *Lingua* 18, 1-34.
- Langacker, R. W. (1987) *Foundations of Cognitive Grammar: Theoretical Prerequisites*. Vol. I. Stanford UP.
- 中澤和夫 (2014) 「限定修飾について」『英語語法文法研究』第21号, 5-26. 英語語法文法学会。
- 友澤宏隆 (2004) 「行為解説の進行形の認知的分析」『言語文化』Vol. 41, 81-94. 一橋大学語学研究室。
- 吉松 勉 (1966)(訳述)『S. ポッター英語学概論』千城書店. (Simeon Potter, *Our Language*. 1950)

<付記> 匿名のお二人の査読委員から示唆に富むコメントを拝受いたしました。謹んで感謝の意を表します。編集委員の皆様には、煩雑な校正作業に多忙なお時間を割いていただきました。本誌の創刊から31年の歳月が流れました。さまざまな思いが去来しますが、最も悲しい出来事は、終生の恩師・堀内俊和先生が21年前に61歳で永遠の旅立ちをされたことです。直接拙稿をご覧いただけないことが、ただただ悲しく寂しくて、消し去ることのできない虚無感に襲われます。天国からいつも私どもを見守って下さる先生に、近況報告に代えて小論を捧げます。